

カラマツの挿し木育苗試験（1）

～ コンテナ苗（150cc）を採穂台木とした挿し木による増殖効率 ～

1 はじめに

県内のカラマツ造林面積の増加により、苗木生産に必要なカラマツ種子が不足している。限られた種子を有効活用し、苗木を増産する方法として、実生苗から採った枝を挿し付け、苗木を育成する方法（挿し木増殖）があり、北海道を中心に実施されている。今回、岩手県でカラマツの挿し木増殖の導入可能性を検討するため、近年生産量が増加しているコンテナ苗を採穂台木とし、挿し木による増殖効率を調査した。

2 方法

① 供試台木

2022年5月上旬に播種した後、表1のとおり育成した2年生のカラマツコンテナ苗（150cc）を用いた。なお、台木の配置は図1に示すとおりで、このうち採穂に供試する台木を無作為に14本選んだ。

② 採穂および挿し付け

2023年7月12日、供試台木から穂長5cm以上の1次枝を採穂し、全てを挿し床に挿し付けた。挿し床は、苗木用人工団粒構造培地と鹿沼土の混合土へ緩効性肥料を配合し、マルチキャビティコンテナ（150cc）に充填したものである。挿し付け後は、寒冷紗を貼ったビニールハウス内のミスト散水下で育苗した。なお、採穂時の台木の根元径、苗高は、参考として表2に示した。

③ 調査方法

調査は挿し付け翌春の2024年5月15日に実施した。最初に、台木ごとの挿し穂の生存数を数え、台木からの増殖数とした。次に、台木あたりの挿し穂の生存率を次のとおり求めた。

挿し穂の生存率(%) = 挿し穂の生存数 ÷ 挿し付け本数 × 100



育苗中のカラマツ挿し木苗（2024.7.8）

3 結果と考察

14本の供試台木から得た採穂数は合計80本で、このうち生存したのは合計で47本であった。台木あたりの採穂数は3～9本、挿し穂の生存率は0～100%、台木からの増殖数は0～7本とばらつき、その平均値は、それぞれ採穂数5.7本、挿し穂の生存率63%、台木からの増殖数3.4本となった（表2）。

4 成果と今後の進め方

今回、コンテナ苗（150cc）を採穂台木とした挿し木による増殖効率は、台木1本あたり平均で3.4倍となり、当県でのカラマツの挿し木増殖導入の可能性が確認できた。

今後は、より実用に近い増殖効率を把握するため、採穂直前まで苗木生産現場で育成したコンテナ苗を採穂台木とし、採穂数等の調査を進める予定である。

表1 台木の育成方法

年月	実施内容	育成場所
2022年5月上旬	播種（露地苗畑）	苗木生産現場
2022年11月下旬	幼苗掘り取り	
2023年3月下旬	幼苗をコンテナ（150cc）に移植	
2023年5月中旬	コンテナごと移動（以降、センターで育苗）	岩手県林業技術センター（センター）
2023年7月12日	供試台木から採穂	

表2 調査結果

(n=14)

区分	平均	標準偏差	最小	最大
採穂数	5.7	1.7	3.0	9.0
挿し穂の生存率 (%)	63	37	0	100
台木からの増殖数	3.4	2.1	0.0	7.0
根元径 (mm) ※1	3.5	1.1	2.2	5.5
苗高 (cm) ※1	28.4	9.5	18.0	43.0

※1：採穂時（2023.7.12）

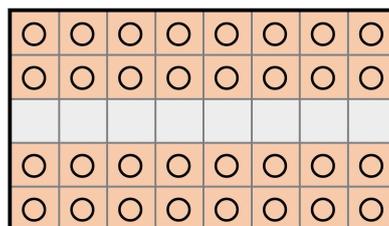


図1 台木の配置（県内生産現場では32本植が一般的）

（担当者 研究部 上席専門研究員 丹羽花恵）

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス：http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410